



史蹟史料部

2023年5月30日

#32

# 日本人墓地公園 ニュースレター

## 防衛省 統合幕僚学校 墓地訪問

2月16日（木）、防衛省 統合幕僚学校の皆様が日本人墓地公園にお越しくださいました。

以前より毎年シンガポールに寄港される際に日本人墓地公園にお越しいただいておりますが、コロナ禍を経て、久しぶりに来園いただき、ありがとうございました。

献花を賜りました後は、海軍兵・楠本留吉の墓をはじめ、墓地公園内を一周して墓碑をご案内させていただきました。





## 楠本留吉（くすもと とめきち）の墓

出典：日本人墓地公園設置サインボード

楠本留吉はシンガポールで埋葬された最も古い日本人の一人で、和歌山県出身、海軍筑波艦壱等水兵補でした。1879（明治12）年3月29日にシンガポールで病没。享年21歳でした。

ブキ・ティマ・ロード（Bukit Timah Road）のキリスト教墓地内に埋葬され、年月とともに忘れられた存在となっていました。およそ50年後の1927（昭和2）年、当地にあった南洋及日本人社（邦人誌出版社）により墓碑が発見されました。

異国の人たちの中でただ一人では寂しいでしょうと、翌年、日本人会によって盛大な移葬法要が行われ、日本人墓地に移されました。ここにある3基の墓はいずれも海軍兵のもので、あとの2基はどちらも明治14年に没した海軍少尉候補生・磯谷外作と海軍参等兵・武内傅十のお墓です。



楠本留吉、磯谷外作、武内傅十の墓

ご案内をされた小林領事